

(別表) 2020年度事業の点検・評価及び2021年度の事業計画(詳細)

取組1 すべての県民への図書館サービスの提供

【行動目標①】誰でも利用しやすい図書館サービスの推進

概要：障害者、高齢者、外国人などのニーズに即した図書館サービスを推進します。安全で快適かつ魅力的で利便性の高い施設環境を整備し、多様な交流と学習、探求、発見、賑わいの場を提供し、多様な利用者のそれぞれの居場所となれる図書館を目指します。

※網掛けは、特に重点をおいて取り組む事業

※下線は、運営指標(数値目標)

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
<p><R2-1> (障害のある方へのサービス) ・視覚障害者等への朗読サービスを行う新規ボランティアを募集し、養成講座を開催します。</p>	○ 感染症拡大防止のため未実施	—	感染症拡大防止のため未実施、評価不能	<p>(障害のある方へのサービス) (1) (継続実施)</p> <p>(2) New! 社会生活を営む上でハンディキャップのある方への理解を深めていただくための資料の展示会や障害者の方の作品展などの企画展示事業を1回以上実施します。</p>
・視覚障害者の方も一緒に楽しめるような音声ガイド付きの映画の上映を、名画鑑賞会で実施します。	○ 名画鑑賞会については、感染症拡大防止のため未実施	—	感染症拡大防止のため未実施、評価不能	
New! 障害のある方の文化芸術活動への理解を促す企画展示を、関係機関・団体等と連携して実施します。	○ 「あいちアール・ブリュット作品展」を実施した。(1/15~3/10) (連携：県障害福祉課)	A	あいちアールブリュット関連作品展を実施することができたため	
(高齢者の方へのサービス) ・外部機関・団体と連携して高齢者を含めた一般向けの健康講座を実施します。	○ 感染症拡大防止のため未実施	—	感染症拡大防止のため未実施、評価不能	<p>(高齢者の方へのサービス) (3) 感染症拡大防止に注意を払いながら、資料の展示会の実施などの代替企画の実施も念頭に置き、一般向けの健康講座を実施します。</p>
New! 読書補助具の点検を行い、必要に応じて更新等を実施します。	○ 点検を日常的に実施し、拡大鏡を更新した。	A	日常的な点検の結果を踏まえ、拡大鏡を更新することができたため	(4) (継続実施)
(外国人県民の方へのサービス) New! 多文化サービスコーナーを充実するため、各外国語図書(日本語学習用資料を含む。)について、100冊を目標に収集します。	○ 198冊を収集(うち電子書籍125冊)した。	A	100冊を目標としていた図書について198冊収集できたため	<p>(外国人県民の方へのサービス) (5) (継続実施)</p>
・外国人県民の方の利用ニーズを踏まえた、多文化サービスコーナーのサインや掲示の改善を実施します。	○ 図書別置ラベル、サインなどを各言語等のテーマカラーで統一し視認性を高めた。また図書館1階にテーマカラーを活用した案内板を設置した。 ○ 日本語学習初心者への配慮として、案内表示を分かり書きし、ふりがなを加えた。	A	多文化サービスコーナーでのサイン等の改善により利便性が高まったため	(6) 多様な外国人県民の方への多文化サービスコーナーの周知を図るため、広報の改善を検討、実施します。
(子育て支援サービス) ・子育て中の方が親子で楽しめる、あかちゃん向け・幼児向け・小学校低学年向け「おはなし会」等イベントを実施します。	○ 感染症拡大防止のため、従来開催してきた子供向けおはなし会等のイベントは休止する一方、絵本や紙芝居を家庭で楽しむヒントをまとめたYouTube動画を作成し、ホームページで公開した。	A	おはなし会等のイベントは実施できなかったが、来館しなくても楽しめるYouTube動画を作成することで広く県民の方に利用していただくことができたため	<p>(子育て支援サービス) (7) 2020年3月から休止している「おはなし会」の代わりに、家庭での読み聞かせ等に参考になる動画を作成し、YouTube愛知県図書館チャンネルで公開します。</p> <p>(8) 「おはなし会」を、安全対策をとり再開する準備をします。</p>
・子育て中の方に役立つ他の機関や団体のチラシやパンフレット類を常備し、案内・配布します。	○ 子供と一緒に楽しめる情報が掲載された、公園や美術館、博物館のチラシ、フリーペーパー等を児童室に常備し、案内・配布を行った。	B	子育てに有用な情報の提供を実施できたため	(9) (継続実施)

2020年度事業の点検・評価				理由	2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価			
〔施設環境・学習環境の整備〕 ・昨年度の検討結果を踏まえ、順次ICT機器持ち込みエリアを設置します。	○ 全館でICT機器の持ち込みを可とした。(3/26～)	A	全館でICT機器の持ち込みをできるようにしたため	〔施設環境・学習環境の整備〕 (10) New! 来館者のどなたでも使えるフリーWi-Fiを全館的に整備します。	
New! 施設の老朽化に伴う必要な改修工事を実施します。	○ 以下の工事を実施した。 ・インターロッキング改修工事(6/30完了) ・5階大会議室屋根部笠木及びロビー天窓部防水修繕(12/25完了) ・空調機エリミナ等取替修繕(2/19完了) ・ルーパルコニー防水修繕(3/2完了) ・空冷ヒートポンプチャージ更新工事(3/19完了)	A	当初の予定通り施設整備工事を実施したため	(11) 施設の老朽化に伴う必要な改修工事を以下のとおり実施します。 ・資料支援課事務室天井部雨漏り対策工事 ・照明制御設備更新工事 ・高圧進相コンデンサ等更新工事 ・多機能リレー更新工事	
・大会議室の学習室開放について、機を見て再開し、若者や社会人の学習活動を支援する環境を整えます。	○ 10/4(日)から再開した。	A	9/19以降のイベント制限緩和以降再開し、合計17日間開室できたため	(12) 若者や社会人の学習活動を支援するため、感染症拡大防止(「3密」回避)に留意しながら、大会議室での学習室開放を実施します。	
〔入館者数・利用者の満足度〕 ・利用者のニーズに応えるサービスの提供につとめ、 年間33万人以上 の入館者数を指すとともに、90%以上の方が来館の目的を達成できるように資料やサービス環境を整備します。【運営指標・数値目標見直し】	○ 入館者数341,146人(60%補正後の運営指標による進捗率:103.3%) ○ 来館者アンケートによる来館の目的達成率:87.9%	A	来館者アンケートの来館の目的達成率については数値目標に到達しなかったが、2か月の臨時休館にも関わらず、入館者数について数値目標を達成したため	〔入館者数・利用者の満足度〕 (13) 利用者のニーズに応えるサービスの提供につとめ、 年間38万5千人以上 の入館者数を指すとともに、90%以上の方が来館の目的を達成できるよう資料やサービス環境を整備します。【運営指標・数値目標見直し】	
〔危機管理と「新しい生活様式」への対応〕 New! 今回のようなパンデミックという事態の中での事業継続の在り方について調査・検討を進め、新たな災害にも対応できる危機管理体制を構築します。	○ 図書館業務の在り方(拡充、継続、縮小、中断業務等)について、調査・検討し、図書館サービスを提供した。	A	今回のようなパンデミックという事態の中での図書館業務の在り方について、調査・検討し、図書館サービスを提供することができたため	〔危機管理〕 (14) New! 図書館業務の在り方(拡充、継続、縮小、中断業務等)についての調査・検討結果を踏まえ、地方機関BCP(業務継続計画)の見直しを行うとともに、適切に事業継続できる体制を整えます。 (15) New! 講演会などのイベントや図書館見学・実習の実施に関して、緊急事態宣言等が発出された場合について、統一した運用ができるよう規程類を整備します。	
New! 非来館型サービスや「新しい生活様式」に対応した施設や機器の整備・導入を検討し、着手可能なものについては実施に移していきます。(関連:項番<R2-8>(SNSの活用))	○ 電子書籍サービスの提供を開始した。(1/26～、5,529冊) ○ オンライン対面朗読を開始した。(9/20～、1月から本格運用)	A	9月からオンラインで対面朗読を開始し、1月から電子書籍サービスを導入することができたため	〔「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの充実〕 (16) 感染症拡大防止のため外出の自粛等「新しい生活様式」の動行が強く求められていることから、電子書籍サービスの充実やオンライン利用登録の導入等を検討し、非来館型サービスの充実を図ります。	

【行動目標②】地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充

概要：地域の課題解決に役立つ図書館をめざします。ビジネス支援を拡充し、健康・医療サービス、行政支援などのサービスに取り組みます。また、地域の活性化や観光振興などのため、県内各地の取組を紹介したり、交流の場を提供します。

2020年度事業の点検・評価				理由	2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	進捗率		
<p><R2-2> (レファレンス事例の公開登録) ・国立国会図書館のレファレンス協同データベースに、事例を20件以上登録します。 ・2023年度末時点で100件以上登録します。</p>	○ 20件の事例を登録公開した。(進捗率：100%)	A	進捗率100%	(レファレンス事例の登録公開) (17) (継続実施)	
<p>(行政支援サービス) ・県職員向け「県図書だより」を年間2回以上刊行します。</p>	○ 2020年12月及び2021年3月に2回刊行した。(進捗率：100%)	A	進捗率100%	(行政支援サービス) (18) (継続実施)	
<p>New! 「県図書だより」や他機関が行う研修会などで図書館の紹介や効果的な使い方などを解説します。</p>	○ 12月刊行の「県図書だより」で調べる本(逐条研究地方自治法)を紹介した。 ○ 以下の行事や団体の会合で紹介などを実施した。 ・県立高校司書教諭研修会(10/2)(主催：県教委高等学校教育課) ・学校図書館関係職員研修会(感染症拡大防止のため書面開催) ・愛知県学校図書館研究会高等学校部会名瀬地区研究会(11/17)	A	「県図書だより」の他、県立高校司書教諭研修会などで図書館の紹介等を実施したため	(19) New! 県図書館が所蔵する行政資料や地域資料の一層の利活用を図るために、県の事業や本県の実情(ものづくり等)に関連した企画展示を、県各局や関係団体と連携・協力し実施します。	
<p>(ビジネス支援サービス) ・ビジネス支援に関する講演会等の企画や関連資料の展示事業を専門機関や外部の団体と連携して実施します。</p>	○ 企画展示「コロナに負けるな！事業承継・起業を応援します！」(1/15~4/7)を実施した。(連携：日本政策金融公庫)	A	日本政策金融公庫と連携し、事業承継・起業に関する企画展示を実施することができたため	(ビジネス支援サービス) (20) (継続実施)	
<p>(利用者向け図書館利用講座の実施等) ・商用データベースの利用法や参考図書など図書館を活用するツールの利用講座の実施や利用を促進する環境整備を実施します。 ・2023年度末時点でデータベース利用者について2018年度(1247人)比20%増とします。</p>	○ 以下の利用者向け講座を実施した。 ・「新聞活用講座「図書館で調べよう！新聞記事」(12/13、12/19)(参加者：延べ5人) ・「電子書籍の利用ガイド」(3/20、同日2回開催)(参加者：延べ22人)	A	新聞活用講座の他、電子書籍サービスの利用講座を開催できたため	(利用者向け図書館利用講座の実施等) (21) 利用者の調査研究を支援するため、館備え付けのデータベースの活用講座などを実施するとともに、機器配置の再検討など利用しやすい環境整備を行います。	
<p>(行政機関・関係団体との連携・協力) New! 2020年度企画展示の統一テーマである「愛知の農林水産業」を中心に、県各局や地方機関、関連団体等と連携・協力した企画展示を実施し、情報発信に努めます。(担当機関・団体と調整の上実施)</p>	○ 統一テーマ「愛知の農林水産業」で食育消費流通課始め県10機関と連携した企画展示を実施した他、東三河総局や県立福江高校などと連携した企画展示を実施した。(合計県20機関と連携)	A	統一テーマによる企画展示での連携に加え、計20の県機関・関係団体と連携した企画展示が実施できたため	(行政機関・関係団体との連携・協力) (22) New! 2022年度が本県県政150周年であることから、来年度実施する関連企画展示を企画・立案します。	
<p>(地域連携) ・観光情報コーナーについて、県の担当局、県内市町村の観光関係当局、地域の観光協会等と連携し幅広い観光情報の収集・提供を実施し、充実を図ります。</p>	○ 県内自治体、市町村立図書館、観光協会等に観光情報の提供を依頼し収集・提供を実施した。またホームページに観光情報コーナーの紹介を掲載し、周知を図った。	A	県内各地域の観光事業に関するチラシやパンフレット等幅広く収集・提供し、観光情報コーナーの維持管理ができたため	(地域連携) (23) (継続実施)	
<p>・東三河コーナーについて、県東三河総局、東三河8市町村の観光関係当局等と連携・協力し、東三河の観光情報の幅広い収集・提供を実施します。また、東三河の自然・文化等を紹介する企画展示を実施します。</p>	○ 東三河地域の市町村(8自治体)及び観光団体(10団体)と「愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興に係る情報発信の連携・協力に関する協定」を締結し、東三河コーナーを常設化した。(3/26) ○ 企画展示「地域の活性化を目指して：高校生のパワー」(6/2~11/11)(連携：県立福江高校)始め、県東三河総局、県新城設楽振興事務所、(一社)奥三河観光協議会と連携した4つの企画展示を実施した。	A	東三河振興に係る機関と民間団体と連携して企画展示を実施した他、関係機関・団体との連携協定を締結できたため	(24) (継続実施)	

【行動目標③】学校や地域、家庭での子供読書活動の支援

概要：子供の読書活動を支援するため、学校図書館を始め関係機関・団体と連携し、資料の提供や、活動への支援を進めます。

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
<p><R2-3> (県立学校への協力貸出) ・県立学校最寄りの市町村立図書館を経由した協力貸出について、学校訪問等によってニーズを確認し、対象学校を拡大します。(目標：対象校を16校以上) (継続実施)</p>	<p>○ 新たに3校に対し事業を開始した。(対象校を15校に拡大)</p>	B	<p>新規に3校を開拓したが、目標に到達しなかった(進捗率93.7%)ため</p>	<p>(県立学校への協力貸出) (25) (継続実施) 対象校を17校以上にします。</p>
<p>・県図書館から学校(図書館)に向けて年間1,200冊以上の協力貸出を目指します。(市町村立図書館への協力貸出と合わせて1万2千冊以上)【運営指標・数値目標見直し】</p>	<p>○ 学校(図書館)への協力貸出：2,814冊・点(進捗率234.5%)、市町村立図書館への協力貸出と合わせて13,130冊・点(進捗率109.4%)</p>	A	<p>進捗率100%以上</p>	<p>(26) 県図書館から学校(図書館)に向けて年間2,000冊以上の協力貸出を目指します。(市町村立図書館への協力貸出と合わせて12,800冊以上)【運営指標・数値目標見直し】</p>
<p>(教育分野との連携・協力) ・教育関係機関・学校と連携・協力し、児童・生徒の学習活動の成果を、県図書館で紹介する企画展示を実施し、学校と県図書館の知的資源利用者結びつけます。</p>	<p>○ 以下の企画展示を実施した。 ・県立福江高校パネル展「地域の活性化を目指して：高校生のパワー」(6/2～11/11) (連携：県立福江高校) ・作品展示「愛知県定時制・通信制生徒による作品展示：個性は十人十色」(9/11～10/7) (連携：愛知県定時制通信制教頭・副校長会、愛知県高等学校定時制通信制教育振興会)</p>	A	<p>県立福江高校の生徒の学習活動の成果をパネルで紹介するとともに、県内の定時制・通信制高校の文化部所属生徒の作品をYottekoで展示することができたため</p>	<p>(県立高校等と連携した企画展示の実施) (27) 県立高校等の児童・生徒による学習活動の発表の場としてYotteko等を活用した企画展示を1回以上実施します。</p>
<p>(子供読書活動のためのアウトリーチ活動の推進) ・子供の読書活動推進のため、読み聞かせやブックトークといったイベントでの協力、学校図書館の運営に対する助言や支援ができるよう体制を整備し、積極的に市町村立図書館や学校等へ職員を派遣します。</p>	<p>○ 以下の行事や団体の活動に講師・協力スタッフを派遣するなどして協力した。 ・県立高校司書教諭研修会(10/2) (主催：県教委高等学校教育課) ・学校図書館関係職員研修会(書面開催のため書類配布) ・愛知県学校図書館研究会高等学校部会名瀬地区研究会(11/17) ・令和2年度愛知県子供読書活動推進大会・高校生ビブリオバトル愛知県大会(11/1) (主催：県教委生涯学習課)</p>	A	<p>コロナ禍の中であったが、積極的に関係団体の行事や研修会に参加したため</p>	<p>(子供読書活動のためのアウトリーチ活動の推進) (28) (継続実施)</p>
<p>(子供読書活動の推進) ・子供読書活動推進に係る関係機関や団体等と連携・協力し、イベントや企画展示を実施します。</p>	<p>○ 以下の展示や行事に協力、連携した。 ・青少年によい本をすすめる県民運動(8/14～11/11) (連携：社会活動推進課) ・令和2年度愛知県子供読書活動推進大会・高校生ビブリオバトル愛知県大会(11/1) (主催：県教委生涯学習課)</p>	A	<p>本県で子供読書活動推進に係わる機関・団体と連携して資料の展示、ビブリオバトル等を実施できたため</p>	<p>(子供読書活動の推進) (29) (継続実施)</p>
<p>(団体貸出の調査) ・団体のニーズ把握に努め、協力貸出による資料提供の可能性を検討します。</p>	<p>○ アンケート調査等の手法によるニーズ把握を検討した。</p>	C	<p>ニーズ把握の検討にとどまり、資料提供できるかどうかの検討にいたらなかったため</p>	<p>(団体貸出の調査) (30) (継続実施)</p>

【行動目標④】資料保存体制の整備及びデジタル化の推進

概要：県の拠点図書館としての資料保存の中心的な役割を果たすために、資料保存体制を整備するとともに、地域資料を中心にデジタル化を進めます。

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
<p><R2-4> (あいちラストワン・プロジェクトの拡大) ・図書館未設置自治体へのあいちラストワン・プロジェクトの説明・意向確認調査を継続します。</p>	<p>○ 図書館未設置自治体の訪問(R2-6)等の機会を活用しての説明・意向確認調査を実施する予定であったが、感染症拡大のため実施できなかった。</p>	—	感染症拡大防止のため未実施、評価不能	<p>(あいちラストワン・プロジェクトの拡大) (31) (継続実施)</p>
<p>(資料補修研修の実施) ・資料補修技術を有する職員養成のため、引き続き研修を実施します。</p>	<p>○ 館内職員向け資料補修研修を実施した。(8/5、8/6、参加者計6名)</p>	A	前年度(2019年度)と同じ回数の研修を実施できたため	<p>(資料補修研修の実施) (32) (継続実施)</p>
<p>New! 資料補修研修については、実習の関係上、参加人数に限られることから、未参加者にも知識や技法を教授するツールを開発します。</p>	<p>○ テキストと作業映像を組合わせた教材の配布版の完成には至らなかった。</p>	C	配布版の完成には至らなかったが、作成に着手したため	(33) (継続実施)
<p>(資料のデジタル化の推進) ・貴重本の撮影済みデータや、自館でデジタル化したデータを順次調査し、「貴重本デジタルライブラリー」等のホームページで公開します。(目標：15タイトル)</p>	<p>○ ホームページ「貴重本デジタルライブラリー」に「凶荒図録」始め19タイトル22冊を公開した。 ○ ホームページ「愛知県図書館 画像コレクション」に「本能寺焼討之図」始め画像3点を公開した。</p>	A	進捗率100%以上	<p>(資料のデジタル化の推進) (34) 貴重本の撮影済みデータや、自館でデジタル化したデータを順次調査し、「貴重本デジタルライブラリー」等のホームページで公開します。(目標：10タイトル)</p>
<p>(蔵書収容能力の維持・管理) ・開架図書の適正な収蔵の維持及び合理的な書庫の利用のため、適切な計画に基づく配転作業を実施します。</p>	<p>○ 整理期間での配転計画に基づき、開架図書約7,200冊を開架書庫に配転し、空いたスペースを開架図書の適正な収蔵に利用した。(配転計画で予定していた8,000冊の90%を配転)</p>	B	進捗率80%以上100%未満	<p>(蔵書収容能力の維持・管理) (35) 開架及び開架書庫の有効活用を図るため、適切な計画に基づく書庫への配転作業及び除籍候補選定のための複本所蔵資料の調査を実施します。</p>

取組2 市町村立図書館等への支援

【行動目標⑤】 協力貸出、相互貸借の拡充

概要：市町村立図書館等との間で運行している資料搬送定期便の効率的な運用により、協力貸出、相互貸借の拡充を図ります。

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
<p><R2-5> (市町村立図書館等への協力貸出) ・県図書館から市町村立図書館に向けて年間10,800冊以上の協力貸出を目指します。(学校(図書館)への協力貸出と合わせて1万2千冊以上)【運営指標・数値目標見直し】</p>	<p>○ 市町村立図書館への協力貸出：10,316冊・点(進捗率95.5%) (学校(図書館)への協力貸出と合わせて13,130冊・点(進捗率109.4%))</p>	B	進捗率80%以上100%未満	<p>(市町村立図書館等への協力貸出) (36) 県図書館から市町村立図書館に向けて年間10,800冊以上の協力貸出を目指します。(学校(図書館)への協力貸出と合わせて12,800冊以上)【運営指標・数値目標見直し】</p>
<p>(資料搬送定期便の維持) ・安定した資料搬送のため、予算確保や運行の効率化に努め、週1回の資料搬送定期便を維持します。</p>	<p>○ 安定した資料搬送を継続するための予算要求資料を作成した。 ○ 市町村立図書館職員を対象とした協力担当者新任研修を実施(資料配付)し、効率的な運行のための資料搬送定期便の利用方法(適切なサイズの搬送用コンテナの選択方法、資料梱包方法等)を周知した。</p>	A	週1回の資料搬送定期便を継続する他、市町村立図書館職員向けに研修や適切な利用方法を周知したため	<p>(資料搬送定期便の維持) (37) (継続実施)</p>
<p>(協力貸出の流通状況の調査) ・協力貸出データ分析では、市町村立図書館の需要を把握するための有意な結果が得られなかったことから、市町村立図書館からの購入リクエストの分析など、これに代わる手法での需要の把握に努めます。</p>	<p>○ 2020年度の12月までに予約された資料について、分野、出版年、価格などを調査。専門書や高価な資料より、近年の比較的安価な資料の需要が大きいが、古く安価な資料の中に市町村立図書館が所蔵しない希少な資料が含まれることを確認。分野も9類が約21%で一番多いなど当館の所蔵状況に対応していることが判明した。</p>	A	市町村立図書館からの予約資料について分析を行い、需要の動向を確認できたため	<p>(協力貸出の流通状況の調査) (38) New! 協力貸出データの分析だけでなく、市町村立図書館からの購入リクエストや、市町村立図書館が県外から取り寄せた資料の分析など、潜在的な需要も含めた把握のための手法を検討します。</p>

【行動目標⑥】 市町村立図書館等の運用・人材育成の支援

概要：市町村立図書館等が地域の課題解決に資する質の高いサービスを提供できるよう、運用・人材育成を支援します。

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
<p><R2-6> (図書館訪問) ・県図書館の市町村立図書館へのサポートのニーズを把握し、それぞれの地域での読書推進活動に資するため、市町村の中央図書館の1/3以上(16館以上)を計画的に訪問します。</p>	<p>○ 感染症まん延が長期化しており、市町村立図書館への訪問は6館にとどまった(進捗率37.5%)が、各館の状況を問い合わせ、情報交換することでサポートを行った。</p>	D	進捗率60%未満	<p>(図書館訪問) (39) 県図書館の市町村立図書館へのサポートのニーズを把握し、それぞれの地域での読書推進活動に資するため、感染症の動向を考慮に入れながら、市町村の中央図書館の1/5以上(10館以上)を計画的に訪問します。感染症が収束せず、計画通りの訪問が難しい場合は、訪問以外の方法で市町村立図書館と情報交換を行い、サポートに努めます。</p>
<p>・図書館未設置自治体についても、公民館図書室等の施設や読書推進活動の担当課等を1以上訪問し、図書館未設置自治体での読書推進活動を把握します。</p>	<p>○ 南知多町と東栄町への訪問について調整。感染症拡大防止のため、年度内に訪問できなかったが、貸出文庫の配送の時に来館した担当者との情報交換を行った。</p>	B	感染症拡大防止のため図書館未設置自治体への訪問はできなかったが、来館した2自治体の担当者との情報交換を実施できたため	<p>(40) (継続実施)</p>
<p>(図書館員の研修) ・愛知図書館協会等のネットワークを活用し、県内図書館の状況の把握と研修に対する要望を踏まえ、時宜に適した内容の研修を実施します。</p>	<p>○ 愛知県公立図書館長協議会、愛知図書館協会の研修委員会の意見や研修参加者へのアンケート結果などを踏まえ研修のテーマや内容の選定に反映させた。 ○ 県図書館が事務局を務める関係団体(愛知図書館協会、愛知県公立図書館長協議会)の研修について、集合を要しない方式(音声配信、資料配付、通信講座方式など)で実施した。</p>	B	関係者から研修への要望を聴取し、内容に反映させた研修を、音声配信や資料配布などで実施したが、実地での集合式の研修ができなかったため	<p>(県内の図書館関係者への研修の強化) (41) 愛知図書館協会等のネットワークを活用し、県内図書館の状況の把握と研修に対する要望を踏まえ、時宜に適した内容の研修を、感染症拡大防止策を講じながら、適切かつ効果的な手法を検討し実施します。</p>

取組3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成

【行動目標⑦】 様々な団体・行政機関と連携する場と機会の提供

概要：各種団体や行政機関と連携して講演会や資料展示会等を開催し、県民の方と県図書館、各種団体及び行政機関が持つ知的資源を結び付けます。

2020年度事業の点検・評価				理由	2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由		
<p><R2-7> (文化芸術機関等との連携) ・愛知芸術文化センター（栄施設）の各施設や陶磁美術館、愛知県立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会等の企画展示を実施します。</p>	<p>○ アーツスペシャリストによる連続講座を県芸術劇場、県美術館及び陶磁美術館の専門家と連携して以下の講座を実施した。 ・『ラ・ボエーム』に見る人間関係とオペラスタッフのコミュニケーション（10/28）（県芸術劇場・水野学氏） ・文学・言葉と美術（11/25）（県美術館・深山孝彰氏） ・近代の人 宮沢賢治（12/16）（陶磁美術館・佐藤一信氏）</p>	A	<p>従前から連携していた県美術館に加え、県芸術劇場、陶磁美術館の専門家による講座を実施できたため</p>	<p>(文化芸術機関等との連携) (42)（継続実施）</p>	
<p>(行政機関・関係団体との連携・協力) New! 2020年度企画展示の統一テーマである「愛知の農林水産業」を中心に、県各局や地方機関、関係団体等と連携・協力した企画展示を実施し、情報発信に努めます。（担当機関・団体と調整の上実施）【項番<R2-2>の再掲】</p>	<p>○ 統一テーマ「愛知の農林水産業」で食育消費流通課始め県10機関と連携した企画展示を実施した他、東三河総局や県立福江高校などと連携した企画展示を実施した。（合計県20機関と連携）《再掲》</p>	A	<p>統一テーマによる企画展示での連携に加え、計20の県機関・関係団体と連携した企画展示が実施できたため《再掲》</p>	<p>(行政機関・関係団体との連携・協力) (43) 県図書館が所蔵する行政資料や地域資料の一層の活用を図るために、県の事業や本県の特長（ものづくり等）に関連した企画展示を、県各局や関係団体と連携・協力し実施します。《(19)の再掲》</p> <p>(44) New! 2022年度が本県県政150周年であることから、来年度実施する関連企画展示を企画・立案します。《(22)の再掲》</p>	
<p>(教育分野との連携・協力) ・教育関係機関・学校と連携・協力し、児童・生徒の学習活動の成果を、県図書館で紹介する企画展示を実施し、学校と県図書館の知的資源を利用者と結びつけます。【項番<R2-3>の再掲】</p>	<p>○ 以下の企画展示を実施した。 ・県立福江高校パネル展「地域の活性化を目指して：高校生のパワー」（6/2～11/11）（連携：県立福江高校） ・作品展「愛知県定時制・通信制生徒による作品展：個性は十人十色」（9/11～10/7）（連携：愛知県定時制通信制教頭・副校長会、愛知県高等学校定時制通信制教育振興会）《再掲》</p>	A	<p>県立福江高校の生徒の学習活動の成果をパネルで紹介するとともに、県内の定時制・通信制高校の文化部所属生徒の作品をYottekoで展示することができたため《再掲》</p>	<p>(県立高校等と連携した企画展示の実施) (45) 県立高校等の児童・生徒による学習活動の発表の場としてYotteko等を活用した企画展示を1回以上実施します。《(27)の再掲》</p>	
<p>(博物館、公文書館等との連携) ・県公文書館のシステム更新を踏まえ、適合可能性を検証し、連携・協力について協議します。</p>	<p>○ 県公文書館と打ち合わせ後、システム運用業者と協議し、2021年度中のシステム連携実現に向けて検討した。</p>	A	<p>検討の結果、実現へ向けて図書館システムでの技術的調整を行うこととしたため</p>	<p>(県公文書館との連携) (46) New! 県公文書館と連携・協力して、県図書館と県公文書館が所蔵する地域資料・県関係行政資料の活用を促進します。</p>	
<p>(団体貸出の調査) ・団体のニーズ把握に努め、協力貸出による資料提供の可能性を検討します。【項番<R2-3>の再掲】</p>	<p>○ アンケート調査等の手法によるニーズ把握を検討した。《再掲》</p>	C	<p>ニーズ把握の検討にとどまり、資料提供できるかどうかの検討にいたらなかったため《再掲》</p>	<p>(団体貸出の調査) (47)（継続実施）《(30)の再掲》</p>	

【行動目標⑧】多様なメディアを活用した広報の強化

概要：県図書館の活動を県民に知ってもらい、身近な存在となるようホームページ、ソーシャルネットワークサービス（SNS）や動画サイトなど様々なメディアを活用し、広報活動の強化に努めます。

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
<p><R2-8> （事業年報・館報の刊行） ・館の広報誌である事業年報と館報「あゆち」について、内容を充実させるとともに、事業年報については8月、館報については2月の発行を目指します。</p>	<p>○「事業年報」については、一昨年度よりも114%ページ数増して発行した（9月）。館報「あゆち」21号については、予定よりも早く発行できた（1月）。</p>	A	<p>「事業年報」については、発行が予定よりも遅れたが、一昨年度（11月）よりも早期に発行でき、内容も充実できたこと、館報「あゆち」については、予定よりも早く発行できたため</p>	<p>（事業年報・館報の刊行） (48)「事業年報」及び館報「あゆち」の発行については、昨年度並みの時期の発行を目指すとともに、内容について、時宜に即したものであるようにします。</p>
<p>（SNSの活用） ・引き続き既存のSNS（Facebook、Twitter）の内容の充実を図るとともに、新しい種類のSNSの活用を検討し、フォロワー数の増加（5%）を目指します。 ・2023年度末時点でフォロワー数について2018年度（1,661人）比27%増とする。</p>	<p>○YouTubeに「愛知県図書館チャンネル」を開設（5/20）し、「読書の木をそだてよう！～おすすめの一冊、紹介します」（5/20公開）始め10件の動画を公開した。 ○Twitter・Facebookフォロワー数：2019年度末1,894→2020年度末2,123（12%増）</p>	A	<p>新規にYouTubeでの動画広報を開始し10件動画を作成公開したため、また、TwitterとFacebookのフォロワー数が目標を超えて増加したため</p>	<p>（SNSの活用） (49)（継続実施）</p>
<p>New! 新規に導入したYouTubeでの動画広報について、活用できる体制を作り、制作を軌道に乗せました。</p>	<p>○YouTubeに「愛知県図書館チャンネル」を開設（5/20）し、「読書の木をそだてよう！～おすすめの一冊、紹介します」（5/20公開）始め10件の動画を公開した。《再掲》</p>	A	<p>新規にYouTubeでの動画広報を開始し10件動画を作成公開したため《再掲》</p>	<p>（電子書籍サービスのPR） (50) New! 新しく導入した電子書籍サービスの一層の利活用を促進するため、効果的なPRの方策を検討・実施します。</p>
<p>（ホームページの見直し） New! 当館のホームページについて、見やすく親しみやすいものにするため、見直しの検討を開始し、作業に着手します。</p>	<p>○館内で検討し、課題点を洗い出し、着手可能な箇所から加除修正を実施した。</p>	A	<p>課題点を洗い出し、加除修正作業を行うことができたため</p>	<p>（ホームページの見直し） (51)（継続実施）</p>
<p>（主要紙での広報） ・主要紙に掲載される記事について、企画展示の案内等に留まるのではなく、県図書館の取組みを伝えるものが80%以上となるようメディアに働きかけます。【運営指標】</p>	<p>○プラス評価の記事の割合：82.7%（24件/29件）</p>	A	<p>進捗率100%以上</p>	<p>（主要紙での広報） (52) 主要紙での広報について、県図書館の取組みを伝えるもの（企画展示の案内を含む。）が80%以上となるようメディアに働きかけます。【運営指標】</p>
<p>（SNS等での広報） New! 新規に導入したYouTubeでの動画広報について、活用できる体制を作り、制作を軌道に乗せました。《再掲》</p>	<p>○「読書の木をそだてよう！～おすすめの一冊、紹介します」（5/20公開）始め10件の動画を作成し、YouTubeで公開した。《再掲》</p>	A	<p>新規にYouTubeでの動画広報を開始し10件動画を作成公開したため《再掲》</p>	<p>（電子書籍サービスのPR） 《(50)の再掲》</p>
<p>（会議やアウトリーチ活動等での広報） ・引き続き、会議や研修、アウトリーチの場を使い、県図書館の広報に努めます。</p>	<p>○以下の行事や団体の会合で紹介などを実施した。 ・県立高校司書教諭研修会（10/2）（主催：県教委高等学校教育課） ・学校図書館関係職員研修会（書面開催のため資料配布） ・愛知県学校図書館研究会高等学校部会名瀬地区研究会（11/17） 以上《再掲》 ・県政お届け講座（2/15）</p>	A	<p>県関係機関・団体の研修会及び県政お届け講座で県図書館のPRに努めたため</p>	<p>（会議やアウトリーチ活動等での広報） (53)（継続実施）</p>

2020年度事業の点検・評価				2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由	
（開館30周年事業の企画） New! 2021年に開館30周年を迎えることから、記念事業の実施を企画します。	○ 30周年記念誌の編さん・刊行、記念講演会の開催、4月20日の開館記念日行事の実施、企画展示の実施等を企画した。	A	2021年4月から開始する開館30周年記念事業の企画立案を行った	（開館30周年事業の実施） (54) 2020年度に立案した記念事業について、順次着実に実施していきます。
（利用者参加型の企画の実施） ・「手に取る書庫内ツアー」など利用者参加型の企画を実施します。	○ 感染症拡大予防のため、2020年度は開催を見合わせました。	—	感染症拡大防止のため未実施、評価不能	（利用者参加型の企画の実施） (55) 「図書館探検ツアー」やワークショップなどの利用者参加型企画について、安全対策をとり再開する準備をします。
（文化芸術機関等との連携） ・愛知芸術文化センター（栄施設）の各施設や陶磁美術館、愛知県立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会等の企画展示を実施します。【項番<R2-7>の再掲】	○ アーツスペシャリストによる連続講座を県芸術劇場、県美術館及び陶磁美術館の専門家と連携して以下の講座を実施した。 ・『ラ・ボエーム』に見る人間関係とオペラスタッフのコミュニケーション（10/28）（県芸術劇場・水野学氏） ・文学・言葉と美術（11/25）（県美術館・深山孝彰氏） ・近代の人 宮沢賢治（12/16）（陶磁美術館・佐藤一信氏）《再掲》	A	従前から連携していた県美術館に加え、県芸術劇場、陶磁美術館の専門家による講座を実施できたため《再掲》	（文化芸術機関等との連携） (56)（継続実施）《(42)の再掲》

取組 4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備

【行動目標⑨】ものづくり文化、地域資料などの専門的な資料の収集と提供

概要：改正した収集方針等に基づき、ものづくり文化資料、地域資料等を重点的に収集し提供します。また、拠点図書館として市町村立図書館の蔵書を補充する役割を果たし、県図書館ならではの専門的な資料や研究書等を中心に充実した蔵書を収集し提供します。

2020年度事業の点検・評価				理由	2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由		
<p><R2-9> (蔵書検索アクセス数) ・本県の特徴に応じた、県図書館らしい蔵書構築やその充実に努め、蔵書検索アクセス数を年間180万件以上となるよう努めます。(運営指標)</p>	○ 年度計1,791,494回(進捗率:99.5%)	A	進捗率ほぼ100%	<p>(蔵書検索アクセス数) (57) <u>(継続実施)</u> (運営指標) (あいち文化芸術振興計画2020数値目標)</p>	
<p>(重点収集資料の受入れ) ・重点分野の資料について、引き続き受入点数の50%以上を占めるように努めます。 ・5か年受入6万点(予想)のうち当該分野を3万点以上にします。</p>	○ 重点分野の資料について、受入点数の53.5%を占めた。	A	進捗率100%以上	<p>(重点収集資料の受入れ) (58) (継続実施)</p>	
<p>(社史等ものづくり関係資料の受入れ) New! 社史等ものづくり文化に関する資料について、担当と協議し、100点以上の受入れを目標に、必要な資料を調査・選定し、収集・整理します。2023年度末社史については、7,700点所蔵します。</p>	○ 未所蔵の社史等を調査し、66件を寄贈依頼、受入実績55件。依頼したもの以外も合わせて112件受入した。	A	進捗率100%以上	<p>(社史等ものづくり関係資料の受入れ) (59) (継続実施)</p>	
<p>(蔵書評価) New! 蔵書評価を、他都道府県立図書館との蔵書構成比較、県内市町村立図書館との収集図書との比較の2点で行います。</p>	○ 他都道府県立図書館との蔵書構成比較、県内市町村立図書館との収集図書との比較の2点についてデータを収集。データの分析、検討を行った。また、報告書を作成した。	A	蔵書評価について分析、検討を行い、報告書を完成させた	<p>(資料の充実を図る事業の検討) (60) New! 県民の方が寄附しやすい仕組みを検討し、本の寄附を募るなど、資料の充実を図るための新たな事業の実施を検討します。</p>	

【行動目標⑩】新しい取組みを担う県図書館職員の育成

概要：社会の変化や多様なニーズに応えるため、図書館サービスを効果的・効率的に行う研修や調査研究の実施に努めます。

2020年度事業の点検・評価				理由	2021年度の事業計画
事業計画	取組状況	点検・評価	理由		
<p><R2-10> (館内研修の推進) ・県の拠点図書館としての役割について理解を深める館内研修を実施します。</p>	○ 館内研修について、「コンプライアンス」始めとするテーマで年間9回実施した。	B	館内研修の開催要領に規定されている実施回数(10回)に達しなかったため	<p>(館内研修の推進) (61) 県の拠点図書館としての役割について理解を深める館内研修について、規定の回数(10回)実施できるように努めます。</p>	
<p>(職員の研修) ・図書館の運営に資する統計学や広報手法等関連領域の研修(eラーニング等非対面型の研修含む。)に職員の受講を促します。(目標:延べ10人の受講)</p>	○ 関連領域の研修に8件14人を派遣した。(参考:図書館関係を含めた全計22件94人)	A	進捗率100%以上	<p>(職員の研修) (63) (継続実施)</p>	
<p>(講師派遣・成果発表) ・市町村立図書館等への職員の講師派遣や学協会等での発表(会報や学協会誌等での文献発表を含む)を年間14回以上実施します。(地域の要望に積極的に応じるとともに、広報にも努める)【運営指標・数値目標見直し】</p>	○ 14件の職員派遣又は文献発表を実施した。(60%補正後の運営指標による進捗率:100%)	A	進捗率100%	<p>(講師派遣・成果発表) (64) 市町村立図書館等への職員の講師派遣や学協会等での発表(会報や学協会誌等での文献発表を含む)を年間17回以上実施します。(地域の要望に積極的に応じるとともに、広報にも努める)【運営指標・数値目標見直し】</p>	